

『雪の写真家 ベントレー』

ジャクリーン・ブリッグズ・マーティン / 作 マアリー・アゼアリアン / 絵 千葉茂樹 / 訳
BL 出版



冬の楽しみは雪。雪の朝は緑地も真っ白になり、まるで別世界です。

空からひらひらと舞い落ちる雪をマフラーや手袋に受けて、虫眼鏡でそっと覗いてみませんか？美しいシンメトリーの世界が見られる

はずです。しかもどの雪の結晶も同じものではなく、少しずつ形が変わっています！自然の造形の不思議ですね。

雪の結晶の美しさに魅了された少年がいました。雪深いアメリカ・バーモント州の農家の息子、ウィリー（ウィルソン・A・ベントレー）です。『雪の写真家 ベントレー』では、熱中人ウィリーを版画であたたかく紹介してくれています。

ウィリーは農業のかたわら、毎年毎年、冬には夢中になって雪の結晶の写真を撮り続けました。少しでも完全な形の結晶を得るためには、何時間も寒い中を立ちつくして落ちてくる雪を待たなくてはなりません。美しい結晶、不思議な形の結晶をうまく写真に撮れた時、ウィリーはどんなに喜んだことでしょう。彼は最後まで一農夫として暮らしました。でも、亡くなる一カ月前に出版された雪の結晶の写真集「SNOW CRYSTALS」(Dover Publications 1931年)は今でも手にとることができます。全ページ雪の結晶ばかりの写真集。一つとして同じ形がない2300もの結晶の写真は、ウィリーの生き方を静かに物語ってくれます。

東京もそろそろ雪がほしいこの頃です。今年はどうな雪の一ひらに会えるか・・・

